

南山大学広報誌

NANZAN

bulletin

vol. 191
2014.12.20



野外宗教劇
「受難」

NANZAN
UNIVERSITY



野外宗教劇 「受難」

野外宗教劇「受難」は、古くから続く南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴダの丘における十字架の上の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる野外劇です。出演はもちろんのこと、演出、脚本、衣装、メイク、情報宣伝その他「受難」に関わるすべてのことを学生たち自身が行い、基本的に同じ筋を辿るストーリーにも毎年新たな解釈が加えられており、来場者の方々に毎年新たな楽しみを提供しています。

今年は「誠実に生きること」をテーマに脚本が作成され、特定の登場人物を大きく取り上げることなく、イエスの他、使徒や大祭司、悪魔や天使、そして民衆にも焦点を当てた演出となっていました。10月11日に名

古屋キャンパスのパッセ・スクエアにて上演され、虫の音が響き渡る中、幻想的な場面が次から次へと繰り広げられ、2時間30分におよぶ「受難」は感動の中に今年も幕を閉じました。



ストーリー

紀元30年頃、ローマの支配下にあったパレスチナの人々は、権力者からの圧政や貧困などに苦しみ、希望を見い出せませんでした。そこに、聖母マリアから生まれた神の子イエスが現れました。イエスは多くの奇跡を起こし、次第に人々に信頼され、ユダヤ人の救い主「救世主」と呼ばれるようになります。弟子を引き連れて首都エルサレムに来城すると、人々は大いに歓迎しました。

しかし、ファリサイ派の律法学者や大祭司、イエスのことを理解できなかった民衆は、イエスを受け入れず、ついにはイエスの弟子の1人であるユダも、悪魔サタンに誘惑されてイエスを裏切り、イエスを大祭司たちに引き渡してしま

ました。そして、裁判にかけられたイエスは死刑判決を言い渡されます。

イエスを支持していた民衆も一変、イエスを非難しました。イエスは多くの罵声を浴びながら自らの十字架を背負って処刑の地ゴルゴダの丘へ向かいました。十字架刑が執行され、多くの弟子が悲しみに浸っていると、弟子の1人が「イエスの想いを世界に伝えに行きましょう」と言い出しましたが、そのことに戸惑う弟子もいました。しかし、処刑から3日後、イエスが墓から居なくなりました。そこで弟子たちは、イエスが「3日後に復活する」と話していたことを思い出しました。復活したイエスに出会い、天使ミカエルの諭しもあり、弟子たちはイエスの想いを世界に伝えるため、旅立ちました。



「受難」について

南山大学長
野外宗教劇部長
ミカエル・カルマノ

「キリスト教」と言えばと尋ねると、信者でない方も中心的な教えの具体例として「愛の掟」をあげるのではないのでしょうか。これは決して間違いではありませんが、もっと根本的な言葉に「イエスは生きておられる」という、イエスの復活を宣言するイエスの弟子たちの喜びに満ちた叫び声があります。

受難劇は毎年アレンジが加わりますが、根本的なメッセージは変わっていません。民衆に「神の国」

を解くイエスの説教、そして「イエスは生きておられる」という弟子たちの叫び声、これらに潜まれているメッセージは、問題提起という形で今年もパッセ・スクエアに響き渡りました。ここで言う問題の中心は「神の国」の意味内容です。救いを待ち望んでいる人やイエスに出会った人のそれぞれの想いと、イエスが伝えようとした「神の国」の意義との間に生じている誤解と葛藤が劇中に描かれました。

最後に「イエスは生きておられる」と実感した弟子たちは、チャレンジが多いイエスの道を選び、「さあ、俺たちも旅立ちよう。」と、劇の終わりのところで新しい「Happy Beginning」を実践しました。この受難劇を通して、人生に対する考えを少しでも新しくしてみただけであればと思います。



学生の声

野外宗教劇主幹
棟居 悠
(経済学部経済学科3年)

私たち野外宗教劇は、受難劇のために5月から練習を始め夏休みもほぼ毎日練習をしてきました。部員に演劇経験者がほとんどいなく、演出や脚本も自分達で考えその中で毎日練習をするのは大変でしたが、頼もしい後輩や同級生達の協力、先輩からの的確なアドバイスによりなんとか今年も受難劇を成功することができました。

また今年は、初めて南山高校男子部で受難劇公演をしました。高校での公演は何もかも初めてで、大学での公演とは勝手が違い戸惑うことばかりでしたが、公演が無事成功し、部員達の結束も固まり、私自身も主幹として達成感を得ることができました。

この公演に協力してくださった関係者の皆様、エキストラとして参加していただいた全ての団体様、そしてご来場いただいた皆様に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



Special events

8.28-

全国20大学とネスレ日本株式会社が連携し、「キットカット 受験生応援キャンペーン2015」を実施

南山大学を含む全国20大学がネスレ日本株式会社と連携し、「キットカット 受験生応援キャンペーン2015」が8月28日より開始されました。これは「キットカット=きっと勝つ」から受験生に人気のアイテムとなったキットカットと大学が連携した受験生応援キャンペーンです。

8月からキットカットの公式Webページにて「サクラサク プレキャンパス」が公開されており、それを記念して8月28日に開校式が東京で開催されました。開校式では、受験生応援アーティストが登場した他、今回参加している各大学より担当者が登壇し、自校の特色を一言で紹介しました。南山大学は、「国境のない学びの場」を掲げ、参加した高校生に説明しました。

12月からは期間限定で受験生応援商品の紅白パックが発売され、個包装ごとに各大学のデザインがされており、その中に南山大学のデザインもあります。



9.11-11.8

2014年度明治大学博物館・南山大学人類学博物館協定事業「東日本の再埋葬」

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2010年度から連携協定を結び、収蔵品の交換展示や共同シンポジウムなどを開催してきました。今年度は昨年度に引き続き、交換展示と学芸員によるギャラリートークを開催しました。

9月11日～11月8日に、明治大学博物館による企画展「東日本の再埋葬」を南山大学人類学博物館で開催しました。10月3・4日に開催した明治大学博物館学芸員・忽那敬三氏によるギャラリートークでは、一般の参加者に向けて、弥生時代の東日本において特徴的な墓制である「再埋葬(土葬などの方法で遺体を骨のみの状態に処理し(一次葬)、その骨を壺や甕に再度埋葬(二次葬)した墓)」についての解説を行いました。実物資料を用いながらの丁寧な解説に、参加者は興味深く耳を傾けていました。

また、9月10日～11月9日に明治大学博物館で「これがわたしのお気に入り～タイ北部少数民族の女性の衣服～」と題した南山大学人類学博物館による、タイ北部の民族誌資料の企画展を開催し、関連イベントとして人類学博物館学芸員によるギャラリートークを行いました。



9.26

南山大学附属小学校1年生オリエンテーリング

9月26日に、名古屋キャンパス構内で、南山大学附属小学校1年生のオリエンテーリングが行われました。

これは1年生宿泊学習の一環で、大学を身近に感じ自然を大切にしようとする気持ちを育むこと、体験学習を通じ自ら問題を発見し解決していくといった自立的・能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的として実施されました。

児童たちはグリーンエリアでお祈りをして昼食を

とった後、グリーンエリアG30教室、R棟ロビー、メインストリートといった大学施設を利用し、イエス・キリストの像やバツヘ神父の碑を探してスケッチをしたり、大学ならではの大教室であるG30教室(600人収容)で小学校の教室との違いを探したりしました。また外国人留学生と英語だけを使って会話をしたり、大学生へのインタビューを行うなど、普段とは違った体験や交流を行いました。



9.26

南山大学外国人留学生別科創立40周年記念事業 日本語・日本語教育連続講演会 第1回「日本語教育におけるスタンダード—教授・学習・評価の再考に向けて—」

9月26日に、南山大学外国人留学生別科創立40周年記念事業の日本語・日本語教育連続講演会第1回「日本語教育におけるスタンダード—教授・学習・評価の再考に向けて—」を開催しました。これは、1974年に創立した南山大学外国人留学生別科(CJS: Center for Japanese Studies)が今年で40周年を迎えるにあたり「日本語と留学生でつなぐ過去、現在、未来」と題して記念事業を展開しているものの一環で、この事業の最初のイベントとして行いました。

講演会には日本語教育学会会長・東京外国語大学教授の伊東祐郎氏をお迎えし、日本語教育において明確な教育目標を定めておくことの大切さ、今後の日本語指導のあり方についてお話しいただきました。



9.27

父母の集い

9月27日に、南山大学と南山大学後援会の共催により、名古屋・瀬戸両キャンパスで第42回「父母の集い」を開催しました。

全体集会では、ミカエル・カルマノ学長、小川武男後援会理事長(名古屋キャンパス)、楠井祐次後援会副理事長(瀬戸キャンパス)の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、職業指導の方針、国際教育などについて説明を行いました。

また、在学生3名と渡部森哉准教授(学長補佐)による講演会「内定者が振り返る南山の学生生活〜就

職活動を中心として〜」を開催しました。在学生が就職活動の準備・対策、また苦労や不安について、親に感謝していること、後輩に伝えたいことなどを語った後、会場からの質問に答えました。その他にも、学部・学科懇談会や指導教員との個別面談も行いました。



10.4

正眼短期大学主催「禅セミナーinぎふ」

10月4日に正眼短期大学主催「禅セミナーinぎふ」が岐阜グランドホテルで開催され、正眼短期大学学長の山川宗玄老師と本学のミカエル・カルマノ学長が「カトリックと禅『今日をどう生きるか!』—こころの持ち方生の終わりに—」というテーマで対談されました。

今回のセミナーは、1979年に南山宗教文化研究所などが主催して始まった「東西霊性の交流」の一環として行われました。これは、東西間(仏教とキリスト教間)の交流や理解は多くのことを発展させ、豊かにするという考えから始まった取組みで、1979年に仏教徒の方々の約1ヵ月間におよぶ西ヨーロッパ修道院訪問には山川老師も参加され、実際に修道院生活やローマ巡礼をされました。

セミナーでは禅とカトリックという異なる宗教の死生観について意見を交わし、「神や仏に『任せる』のが信仰であり、そこから発すること(死など)を受け入れることが大切」など多くの共通点が改めて認識される対談となりました。200名を超える参加者は真剣に聞き入り、質疑応答では活発な意見が交わされ、盛況のうちに幕を閉じました。



10.25

受験生のための入試相談会・保護者のためのオープンキャンパス

10月25日に名古屋キャンパスで、一般入試・全学統一入試・センター利用入試を受験予定の方を対象とした受験生のための入試相談会と、高校生の保護者を対象とした保護者のためのオープンキャンパスを同時開催し、739名の方にご来場いただきました。

受験生向けには入試対策講座、入試説明会、学部説明会を、保護者向けには大学概要説明、就職状況と就職サポート説明、南山大学生による就職活動体験紹介、入試説明会を実施した他、個別相談コー

ナーやキャンパスツアーを設けました。個別相談コーナーでは、参加者が直接教員や学生に質問したり、入試や留学、奨学金について熱心に相談したりする姿が多く見られました。



10.28-11.9(名古屋キャンパス)、11.15-22(瀬戸キャンパス)

秋の図書館企画展「語り絵の伝統—日本のマンガ・アニメ文化の源流を探る—」

10月28日~11月9日(名古屋キャンパス)、11月15日~22日(瀬戸キャンパス)に、それぞれ両キャンパス図書館で秋の企画展「語り絵の伝統—日本のマンガ・アニメ文化の源流を探る—」を開催しました。

今回の企画展は、中世の絵巻物や近世の草双紙などから現在のマンガ、アニメにつながる「絵と言葉で語る」という日本の伝統文化に焦点をあて、時代とともに変化・発展していった語り絵を、時系列に並べて紹介しました。貴重な「リチャード・レイン近世絵

本コレクション」や『平治物語絵巻』(複製品)の他、明治時代に出版された明治絵本集なども展示しました。



大学祭

11月1日～4日(名古屋キャンパス)、11月2日～3日(瀬戸キャンパス)に、南山大学大学祭を開催しました。

名古屋キャンパス南山祭のテーマは「サーカス」。それぞれの個性を活かし、全ての人々が楽しめる最高のエンターテインメントにしようという思いが込められました。一方、瀬戸キャンパス聖南祭のテーマは「祭遊記」。聖南祭を通じて来場者が楽しい時間を過ごすことで、最高の思い出を作ってもらいたい、聖南祭をたくさんの方の心に



記したい、という願いが込められました。それぞれのテーマを胸に、学生主体の大学祭は今年も盛況のうちに幕を閉じました。

南山大学同窓会主催、各種イベント盛りだくさんの「ホームカミングデー」も同時開催され(両キャンパス共に11月2日開催)、多くの卒業生とその家族が母校に集いました。



11.2-4

韓南大学校法科大学(韓国)との学術交流会

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法科大学は、毎年大学祭の時期に4日間程度の学術交流会を行っています。1年交代で日本または韓国で研究発表や議論をしていて、12年目となる今年は南山大学にて11月2日～4日に交流会を実施しました。

この交流会は、教員のみではなく、法学部・法科大学院の希望学生も参加しており、今年は「日韓のコーポレートガバナンスにおける諸課題」をテーマに

議論を交わしました。また、学術交流の他、懇親会や南山大学の学内見学も実施し、大学間の交流が積極的に行われました。



11.9

南山大学国際化事業 外国語学部50周年記念 コロンビア大学名誉教授ドナルド・キーン氏講演会 「日本文学と私～外国研究の喜び～」

11月9日に、コロンビア大学名誉教授ドナルド・キーン氏をお迎えし、南山大学国際化事業・外国語学部50周年記念講演会「日本文学と私～外国研究の喜び～」を名古屋キャンパスのフラッテンホールで開催しました。

キーン氏には、外国研究と異文化理解の魅力について、またその難しさや喜びについてお話いただき、参加者は熱心に話を聞き入っていました。ま

た、講演会終了後にはサイン会も実施され、大盛況のうちに終了しました。



11.12

南山大学・昭和消防署合同防災訓練

11月12日の2時限目授業終了直後から、名古屋・瀬戸両キャンパスで、南山大学・昭和消防署合同防災訓練を実施しました。名古屋キャンパスでは、まず地震発生・火災発生を想定した訓練を実施し、参加した学生や教職員は避難・救助や初期消火の確認を行うと共に、設置した災害対策本部では、瀬戸キャンパスとのキャンパス間の連絡確認も行いました。

その後、昭和消防署による消防隊訓練が開始され、指揮官車、指揮車、はしご車、タンク車、救助車、

救急車各1台の合計6台を使用しながら、研究室棟屋上からはしご車による要救助者の救出や、放水訓練などが実施されました。



11.13

独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請による各国教育省関係者の本学訪問

11月13日に、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの依頼で、ミャンマー、ホンジュラス、ネパールから教育大臣が南山大学、南山高等学校・中学校(女子部)、南山大学附属小学校を視察されました。11月10日～12日に「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)に関するユネスコ世界会議」が名古屋で開催されたのにあわせて来日された教育大臣たちが、教員養成課程や授業の見学などを目的

に来訪され、熱心に見学していらっしゃいました。



ACUCA(アジア・キリスト教大学協会) STUDENT CAMPに 参加して

期 間:2014年8月11日～15日

場 所:Fu Jen Catholic University(台湾・新北市)

参加者:柘植克己さん(総合政策学部総合政策学科4年)

中田杏奈さん(総合政策学部総合政策学科4年)



Cultural Nightにて

ACUCA実施内容

ACUCAには、タイ・台湾・フィリピン・韓国・日本・インドネシア・インド・香港のキリスト教の大学が加盟しており、1994年以降2年に1度国際学生会議(STUDENT CAMP)が開催されています。この学生会議は、アジアの学生たちが互いの文化や社会を踏まえて共に語り合い、相互理解を深めるもので、今年は“Values Education: Re-discovering Our Values to Foster a Better You and Build a Better World.”をテーマに、南山大学の学生2名を含む約70名の学生が参加しました。

まず開会式が行われた後、それぞれの国ごとに学生が集まり、自分の国についてまとめ、発表を行いました。その後、“Values in action (Re-examining Values in fast changing society)”をテーマに、それぞれの国の現状の共有やより良い世界を創造する為の活発な議論が交わされました。また、“Cultural Night”と題して参加学生が自らの国の伝統や文化を紹介する時間も設けられており、参加者はそれぞれの国の衣装や楽器、音楽などを用いて紹介したり、伝統的なお菓子などを交換したりし、学生たちの国際交流の場となりました。

※ACUCA:The Association of Christian Universities and Colleges in Asia



✉ 柘植克己さんの感想

今回、学生会議に参加し、アジア各国からきた学生たちと意見を交え、彼ら独自の視点を知ったことで、自分の視野を広げることができました。それだけでなく、一日の大半を違う国で育った学生と共に過ごすことで、彼らの国の文化だけでなく、自分の国の文化を再確認することができたと思います。顕著に違いがみられたのは、自分の意見の主張の仕方でした。日本では避けられちな自分の意見を強く主張するということが、私がいたグループでは頻繁にみられました。しかし、実際にそれは自分たちのアイデアを育むための一つの方法であり、決して悪いことではないと気付くことができたことは、大きな収穫だったと思います。

また、朝と晩には各国が準備した各国のお祈りがあり、夕食の前にはそれぞれがその日に起こった出来事に感謝の言葉を述べていました。これらの経験を通して、キリスト教についてより知識を深めることができたと思います。

この学生会議を通して得たものを今後、世の中に還元していけるように努力したいと思います。

✉ 中田杏奈さんの感想

2014 ACUCA STUDENT CAMPへの参加は、私の4年間の「大学生生活の集大成」といえる貴重な出来事となりました。その理由として以下の3つが挙げられます。まず1つ目に「人間の尊厳のために」を教育モットーに掲げる南山大学で、今までは「授業」という形で『間接的』にしか学んだことがなかったキリスト教的価値観を、会議に参加した学生たちとのディスカッションなどを通じて『直接的』に学ぶことで、より一層「宗教」というものの理解が深まったことです。次に、総合政策学部生として身につけた「複眼的な視点から問題を認識し、解決策を作成する能力」を活かし、「アジアの若い世代が直面する問題をいかにキリスト教の視点から解決するか」という議題について積極的に議論に参加し、活発な意見交換ができたことです。そして、在学中1年間の交換留学経験で身につけた、英語を使ってのディスカッション力や多様な価値観への柔軟性が言葉や文化の違う学生とのコミュニケーションにおいて大いに役立ったことです。

現在4年生のため、今後「学生」としてこのような機会に恵まれることはありませんが、これからは「社会人」としてACUCAで学んだことを活かし、次回はグローバルな舞台で会議参加者と再会出来る日を楽しみにしています。

人と人との繋がりを大切に

近藤 健太

数理情報学部数理科学科 2007年度卒業



私は2008年に、三重県に本社があるワイヤーハーネスという自動車部品を製造している住友電装株式会社に入社し、2013年よりメキシコの工場で品質担当駐在員として業務をしています。

私は特別自動車が好きというわけではありませんでしたが、自身も含めみんなが使用する、みんなが知っている、自動車というものに関わる仕事をしたいと考え就職活動を行っていました。その中で、住友電装の説明会に参加した際に、“人と人との繋がりを大切に”というキーワードに惹かれ今の会社を選びました。実際に入社してみると、部署の上司、先輩に恵まれ厳しいながらも愛情をもった指導をして頂いております。また、業務で壁にぶつかった時には、一人だけでなく部署のチーム全体で乗り越えようと協力できる環境であり、日々苦しい仕事も楽しくやりがいをもって出来ております。

なぜ私がこの“人と人との繋がりを大切に”という言葉に惹かれたかという、小学生の頃よりサッカー、野球、大学ではアメリカンフットボールと団体競技をやってきたからです。一人ではどうにもならないことでも、チームの仲間と努力することで乗り越えることが出来、乗り越えた時の達成



チームメイトと大学最後のオールスター戦後

2008年4月住友電装株式会社に入社。

現在は海外(メキシコ)製造工場にて勤務中。

感は忘れる事の出来ない充実したものでした。また大学ではアメリカンフットボール部での経験を通してコミュニケーション能力を培うことが出来ました。自身が在籍していた頃は、コーチ、スタッフ等を合わせると100人を超える大所帯でした。この100人のメンバーと一つのことを成し遂げるにはお互いのことを信頼できる必要があり、そのためにはコミュニケーションが必要で、自身もこの大学4年間の部活動を通じて身につけることが出来ました。この経験が私の業務に大いに活かされており、私が配属された品質保証部では、製品に問題が出ない様に他の部署と協力、時には意見をし、問題が起こった際にはお客様に謝りにも行きます。また、現在の職場である海外でもコミュニケーション能力は必要不可欠であり、大学時代に身につけることが出来たことは自身の業務に対する自信にも繋がっております。私の経験として分かったことは一生懸命取り組んだことは必ず社会に出てからも活かされます。今後もやりがいを見つけ、とにかく一生懸命取り組んでいきます。



同僚との誕生日パーティー

活躍する南山大生

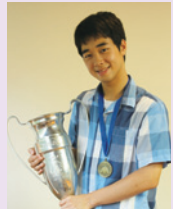
国際ジャグリング・フェスティバルにて優勝

2014年夏にアメリカ・インディアナ州で開催された国際ジャグリング・フェスティバル(2014 International Jugglers' Association Festival)において、経済学部経済学科3年の林広太さんが個人の部で優勝しました。

林さんによると、67回に及ぶ大会の歴史の中で、日本人で優勝したのは3人目、また、林さんが今回披露した3ボールで優勝したのは大会史上初めてのことです。3ボールとは、両手に持っている球が1つずつ、空中に浮いている球が1つ、といった身近では「お手玉」のような技です。簡単に

思えるかもしれませんが、シンプルだけに複雑にできたり、難しい技もできたりする奥深い種目だそうです。

林さんは小学校3年生の時にサーカスでジャグリングを初めて見た際に感動し、独学で始めたのがきっかけで、高校生になってからは幼稚園や老人福祉施設などのイベントでボランティアとして様々なジャグリングを披露しているそうです。とにかくジャグリングが大好きで、時間があるとジャグリングの練習を行っているそうで、今後もボランティア活動でジャグリングを披露していきたいと語ってくれました。



News

サン・カルロス大学から教員が来学

南山大学とフィリピン共和国サン・カルロス大学は2011年度から教員交換協定に基づき教員を相互に派遣しています。2011年度から毎年春学期には南山大学から総合政策学部のムンカダ教授がサン・カルロス大学へ赴いています。サン・カルロス大学からは、2012年度秋学期に続き、今年度の秋学期にヴィリアサンテ先生が来てくださり、英語で授業を行う「国際科目群」で心理学などをご担当いただいています。



私の研究



おかだ・あきよし
人文学部
心理人間学 教授

専門分野は、精神分析学、力動精神医学、青年期精神医学、精神保健、心身医学。
長期研究テーマは、精神分析の実践について。

無意識の探究とその方法 —Sigmund Freudの“生きた遺産”—

岡田 暁彦

心の活動は脳内の生理的事象の一つですが、心が思考し空想するものは生理学的現象ではありません。生物としての人間は、生命の運命に従って生きていますが、同時に内的世界の中で生きています。内的世界とは意識の及ばない無意識の世界でもあり、人間の言動は、その無意識によって突き動かされています。無意識の発見とその探究の方法は、Sigmund Freud(1856-1939)によるものであり、Nicolaus Copernicus(1473-1543)の「地動説」とCharles Robert Darwin(1809-1882)の「進化論」と同じく、人間の世界観に大きな衝撃を与えたと言われています。無意識の探究の実践は Freudが1910年に設立したThe International Psychoanalytical Associationとそこに所属する各国の分析協会を中心に、Freudの死後75年が経った現在でもさらに発展を遂げています。その実践は一つの文化を形成しています。文化には、日本文化、学校文化、職場文化、病院文化、治療文化、地域文化、家庭文化、芸能文化など、さまざまな文化があり、そこには、生活や習慣に根ざした無意識の力動が存在します。人間は常にいくつもの文化に属しながら、意識的にも無意識的にも文化を体

験しています。ある文化の中に身を置いてその文化を真に体験し、その文化をめぐる様々な力動を分析することは、無意識の探究の実践です。また異なる文化の者が出会い、一つの文化を形成しながら、それらの文化をめぐる力動を分析することも無意識の探究の実践です。無意識の探究の実践は、関わりながらの発見であり、創造でもあるでしょう。以上が私の研究の紹介です。



フランス語の基礎と 学習ストラテジーを学ぶ

茂木 良治

私は、フランス学科の1年生の「基礎フランス語」を週2コマ担当しています。この授業ではフランスで出版された教科書を利用し、学んだ文法を使いながら、会話でよく使用される表現を身につけることを重視しています。1年生はフランス語の知識が全くないところからスタートするため、限られた授業時間の中で、なるべく多くの文章を書いたり、発音してもらうことを意識して授業を行っています。たとえば、毎回、作文の小テストを行ったり、ペアで会話文を音読してもらったりして、フランス語の文章の構造やリズムに慣れてもらいます。

また、授業の中では「学習ストラテジー（言語を習得することを目的とした計画や手段）」を強調しています。たとえば、「電車に乗車する」というテーマのテキストなら、切符・座席・車両・行先・時間などが話題になることが予想できるので、いきなり辞書で単語を調べて読み

もぎ・りょうじ
外国語学部
フランス学科 准教授

専攻分野は「外国語教育学、フランス語教育、応用言語学」。
研究テーマは「情報通信技術（ICT）を利用した学習環境の構築」「外国語としてのフランス語習得研究」。
主な担当科目は「基礎フランス語」「フランス文法論」「フランス文化と社会Ⅱ」「フランス語科教育法」。

私のクラス



進めるのではなく、語彙や文の意味を類推しながら理解するように学生に促します。

この授業を履修する学生の多くは、1年次の終わりに1ヵ月間のフランスでの語学研修「フランス語実習」に参加します。わずか1年の学習では、使える語彙や表現も限られるため、話題になっている内容を類推したり、わからない時は聞き返したりと、多様な学習ストラテジーが必要となります。フランス語だけの環境でも対応できるようなスキルを、授業を通して身に付けてもらえるように工夫を凝らしています。



基礎フランス語の授業風景



2015.3.21

南山大学 2014年度「卒業式典」について

開催日時：2015年3月21日(土)

第1部 午後1時より

第2部 午後3時15分より

場 所：名古屋キャンパス体育館

内 訳：第1部：外国語学部、法学部、情報理工学部、短期大学部、
国際地域文化研究科、法務研究科、理工学研究科、
数理情報研究科

第2部：人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、人間文化研究科、
経済学研究科、ビジネス研究科、総合政策研究科

問合せ先：総務課 (Phone:052-832-3112)

※保証人様宛の案内文書は、卒業が確定した学生(2015年3月6日発表)にお渡しする予定です。



Information

◆ 2015年度学生納付金改定について - 授業料・施設設備費の一部改定を決定 -

2015年度南山大学学生納付金について、2014年3月28日開催の南山学園理事会は、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費の一部改定することを決定しました。

◎名古屋キャンパス学部学生

数理情報学部、情報理工学部ならびに理工学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は現行の18,000円に、3年次生および4年次生は現行の9,000円に据え置く。

数理情報学部、情報理工学部ならびに理工学部については、授業料を818,000円に改定し、施設設備費は現行の210,000円に据え置く。

◎名古屋キャンパス大学院学生

数理情報研究科、理工学研究科、ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

数理情報研究科および理工学研究科については、社会人学生を含め授業料を654,000円に改定し、施設設備費は現行の105,000円に据え置く。

◎瀬戸キャンパス学部学生

総合政策学部については授業料を718,000円に、2015年度入学生の施設設備費を240,000円に改定し、他の学生は現行の210,000円に据え置く。

◎瀬戸キャンパス大学院学生

総合政策研究科については、社会人学生を含め授業料を574,000円に改定し、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

社会科学部研究科(博士前期課程)総合政策学専攻については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

◎南山大学短期大学部

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

豊和工業株式会社

代表取締役 坂野 和秀 様

株式会社桜木不動産コンサルタント

不動産鑑定士 武藤 正行 様

大島 恵美 様

加藤 治彦 様

村田 英紀 様

鵜飼 祐佳 様

石黒 鋒子 様

福島 恵美子 様

平野 宏 様

鈴木 俊郎 様

山本 昭彦 様

渡辺 良一 様

山崎 純子 様

北川 伸子 様

伊藤 拓治 様

坂井 康之 様

二村 六郎 様

尾川 佳枝 様

田中 雄三 様

後藤 彰吾 様

中島 経年 様

竹田 繁夫 様

森泉 哲 様

赤壁 弘康 様

大石 泰章 様

他4名様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

大島 恵美 様

近藤 倉弘 様



南山大学

発行 学長室

〒466-8673 名古屋市長和区山里町18

Phone: 052-832-3113(直通)

E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp

http://www.nanzan-u.ac.jp/

本学経済学部准教授 山中仁美氏がご逝去

経済学部准教授の山中仁美氏(39歳)が、
2014年9月22日にご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。